

泌尿器科研修プログラム

指 導 医 門間 哲雄

研 修 期 間 基 本 コ ー ス 選 択 科 目 1 ヶ月から9 ヶ月
小児科・産婦人科コース
産 婦 人 科 主 科 選 択 科 目 1 ヶ月から6 ヶ月
小 児 科 主 科 選 択 科 目 1 ヶ月から6 ヶ月

I 一般目標

- 1) 泌尿器科領域臓器（腎・尿管・膀胱・尿道・副腎・前立腺・精巣等）の解剖・生理を理解し、それらに発生する疾患の検査・治療法を学習し、修得する。
- 2) 泌尿器科領域の画像検査法を理解し、その読影を可能にする。
- 3) 高齢化社会を迎え、全ての科において高齢者の排尿管理に対する理解は必要である。当科の研修を通じ、排尿に関する機構を理解し、正しい排尿の誘導法や排尿障害の対処法を修得する。

II 行動目標

- 1) 外来において診断に必要な問診と病歴・家族歴等の聴取を行う。
- 2) 病棟・外来において診断に必要な検査を理解する。
 - ・視診、触診、直腸診。
 - ・血液検査、尿検査、細菌検査、病理検査。
 - ・内視鏡（膀胱鏡）検査。
 - ・画像検査（KUB、IVP 等尿路造影検査、超音波検査、CT、MRI、アイソトープ検査）。
 - ・排尿機能検査、尿失禁検査。
 - ・腎機能検査。
 - ・副腎機能検査。
- 3) 病棟・外来において泌尿器科領域疾患の治療法を理解する。
- 4) 尿路変更後の管理、導尿カテーテル管理を修得する。
- 5) 手術に加わり泌尿器科領域の手術、特に内視鏡手術を理解する。
- 6) 術前・術後管理、特に高齢者の全身管理を理解する。
- 7) 外科・婦人科・内科等、他科との境界領域疾患における当科の役割を理解する。
- 8) 患者およびその家族との接し方、インフォームドコンセントに関して理解する。

る。

9) 診療記録を読み、また記載することで患者の状態を理解するとともに、その日の診療を復習し、翌日の診療の予習を行う。

Ⅲ 研修方法

・当科の研修を受ける者は原則として外科の研修を終了し、外科領域で必要な清潔・不潔の概念、清潔操作、手術室の出入り法、手洗い法の修得は既になされているものとする

・研修は4週間以上の連続した期間を原則とする。夜間・休祭日はカリキュラム上の研修は行われませんが、泌尿器科的な救急患者の診察・処置は重要であり、オンコールの泌尿器科医師の指導のもと自主的な研修が望まれる。

Ⅳ 評価

評価はE P O Cを使用し、自己評価及び指導医の評価を行う。

なお、指導医は以下の項目を参考評価を行う。

- 1) 泌尿器科領域の解剖・各臓器の生理、および泌尿器科領域疾患の検査・診断・治療法の理解。
- 2) その理解を行うための積極性。
- 3) 診療記録の記載をはじめ医療業務に対する態度。
- 4) 患者および家族に接する態度。